

専門家からの指導・助言①

1 研究の背景

現在の学級集団には、ルールの定着や人間関係の充実によって多様性を尊重し、個別最適な学びと協働的な学びで主体的に学習する生徒の育成が求められている。しかし、現実には小規模校で人間関係が固定し序列化があり、その実現は難しい状況であった。

▲人間関係の固定・序列化によって起こる教育課題

- ・一人一人の心理的な安全が担保されない。
 - ・いじめや不登校等につながる可能性がある。
 - ・予定調和の中で、トラブルが起こるとすぐに大きな問題に発展する。
- ※小規模校に限らず、今は全国的な問題

そこで、本校では班の「3つの機能」を活用して組織でその実現を目指した。班の3つの機能を活用して安定づくりを徹底し、全教科のめあてを達成するための言語活動で主体性の向上も図り、標準化検査(WEBQU・NRT等)で検証している。

この実践により、一人一人に居場所があり、ありのままが許容され、忸度せずに自分の本音が語れる学級の構築を実現している。

2 個と集団の実態に適した指導

- ・4月の生徒の様子は、自信が裏打ちされて一人一人が活性化している成果。今後、個人のバラつきが広がっていくだろう。5月、崩れる可能性がある。
 - 教員の考え方と実践を揃えて協働することが必要。
 - 朝の状況を丁寧に観察。気になることは即共有。組織で対応。
 - その後も、面談と観察を通して、情報を丁寧に集めておくことが大事。感覚ではなく、聞き取った内容やデータを根拠に適した指導をすること。
 - PDCAサイクルを全職員で実践。
- ・安定した距離感の(関わりの薄い)集団がこの時期に壁にぶつかることはある。
 - 気になる生徒がいる場合、そればかりになりがちだが、俯瞰してみると集団の良さはちゃんとある。今できていることを認める。そうでないと、集団がどんどん落ちていく。
 - 苦しいのは○○だけど、調子が良いのは○○。
 - 課題ばかりに目を向けず、これまで築いてきた成果にも目を向ける。できていることを大切にすること。

3 協働実践

- ・個と集団に適した具体的な支援の仕方をイメージすることが重要。
- ・気になることは即相談。
- ・これまでの貯金と挑戦のバランス。
しかし今の時期、生徒は不安定なことが多い。その時は、安定づくりが最優先。
- ・安定している状態になったら挑戦が必要。挑戦せずに安定だけにすると、どんどん落ちていく。
実態を共有して、生活指導と学習指導を全職員で協働実践。失敗させないことが望ましいが、悔しいことが成長するエネルギーになることもある。
- ・検査は指導の裏付けとする。結果が感覚と一致する場合とずれている場合がある。
本人への面接と観察を通して、指導を合わせていく。
- ・グループ編成は、少しずつメンバーを変えていく。
- ・次に揺さぶる生徒は誰か？
- ・漠然とした不安を抱えている生徒には「見通し」「具体性」を持たせると、不安が軽減する生徒もいる。どんな情報が欲しいのか、本人に聞きながら提案していくことが効果的。
※こういうこともあるけど、知りたい？ 調べてみる？ やってみる？
- ・不登校生徒への対応は、本人の変化に気づける人と丁寧につながっておくことが重要。
タイミングがわからないまま提案や接触するのは危険。一杯一杯になっている状態が軽くなってきた時が来たら、適切な提案ができるように段階を踏んだ準備をしておく。
焦らない。 ※医療につなげる◎